



COP26で気がついた 気候危機の根本的な問題点

日本学術会議 国際基礎科学年～持続可能な世界のために

Fridays For Future Japan 原 有穂

原有穂

Fridays For Future Yokosuka/Japan

高校一年生のときに、たまたま気候変動問題のことを知る。その緊急性に対する世間のあまりの危機感のなさに疑問を持ち、FFFに参加。地元横須賀で建設中の石炭火力発電所に抗議している。2021年11月、イギリスで開催されたCOP26にオブザーバーとして参加。世界各国から来たFFFメンバーとのアクションや、日本政府などに直接気候変動対策を求めた。山手学院高校3年生。

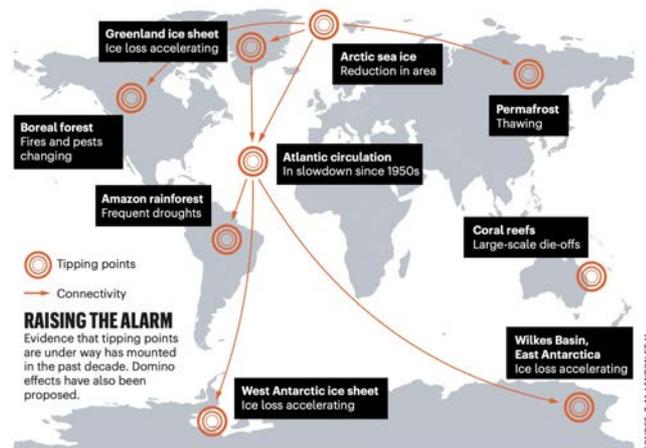
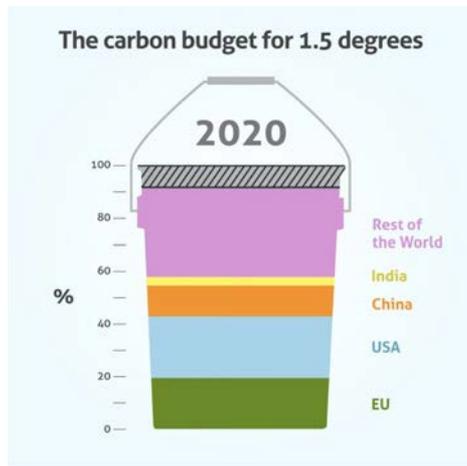


COP会場内でヨハン・ロックストローム博士と対談した際の写真

COP26とは

COP26(国連気候変動枠組条約第26回締約国会議)では、温室効果ガスを国際社会でどう削減していくかについて話し合うために年に一回開かれる会議。

1. 私はどのような科学に基づいて行動しているか



1. カーボンバジェット(炭素予算)

- 私達が排出できる二酸化炭素には限りがある *1
- クライメートクロック(気候時計) このままの二酸化炭素排出量だと、あと7年で炭素予算を超えて 1.5 度に到達してしまう*2

2. ティッピング・ポイント(臨界点)

- 地球上のいくつかの地点で臨界点を超えると、不可逆的な反応がドミノ倒しのように起きる可能性がある*3

※最後のページに参考あり

気候危機に対する市民運動

環境保護運動ではなく、あえて言うならば人権運動になりつつある

グレタ・トゥーンベリを始め、世界中でさかんになっている気候変動に対する市民運動は、若者、先住民、有色人種など、社会的弱者を含めたさまざまな立場の人によって世界各地で行われるようになってきている。

とりわけCOP26では、会場内では政府関係者や各国企業が気候変動対策に関する交渉をする一方、会場内外では連日気候アクティビストや環境NGO、地元住民などによって様々な訴えが繰り返されていた。



Fraturdays For Futureとは

気候変動に対する行動の欠如に抗議する
若者による社会運動



気候正義を求める。



森林保全

ゴミ問題

公害

海洋汚染

環境保護運動

先進国の白人が中心な、比較的ワンイシュー運動。「自然を守る」という価値観のもと、環境破壊に対する抗議をする。

世代間での不平等

人種格差

正義

国家間の格差

生物多様性

気候正義運動

ここ数年間で、環境問題にとどまらず、さらに根本的な問題提起をする人権運動になりつつある。気候危機の被害は相対的に社会的弱者から被害を受け始めるため、BLM、ジェンダー運動などにも発展し、多様性の社会問題の交差性が強調されている。



COPの気候マーチにて。数 kmに及ぶマーチの先頭は MAPAだった。

Economic Impact of Historical Global Warming

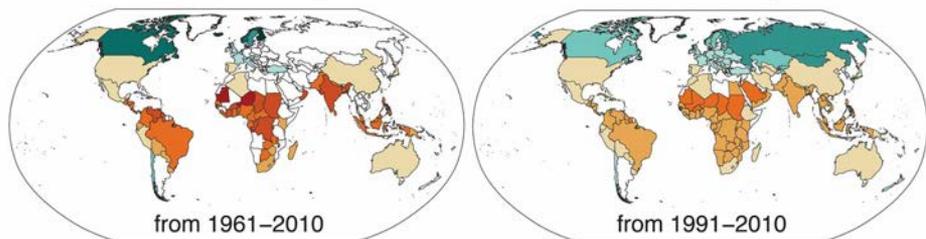
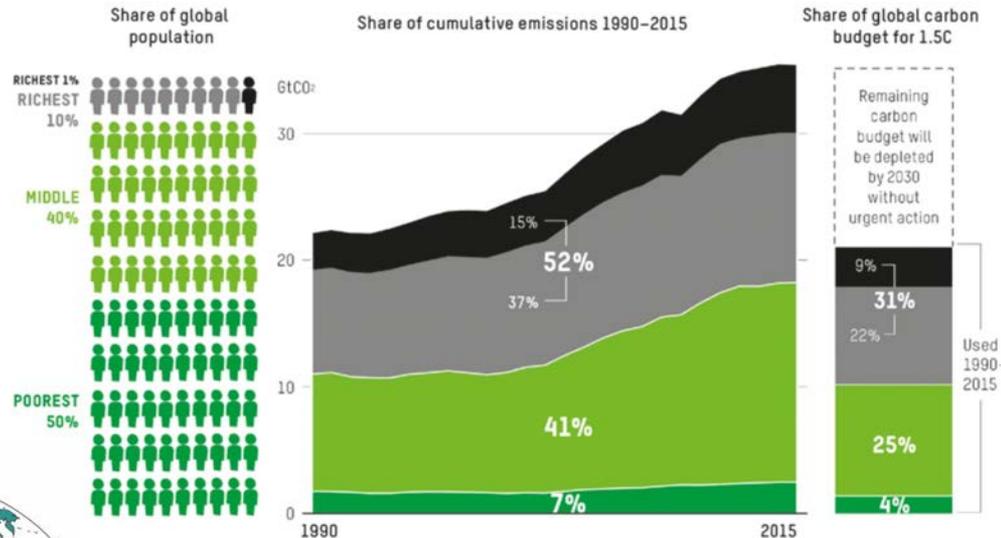


Figure 1: Share of cumulative emissions from 1990 to 2015 and use of the global carbon budget for 1.5C linked to consumption by different global income groups



income threshold (SPPP2011) of richest 1%: \$109k; richest 10%: \$38k; middle 40%: \$6k; and bottom 50%: less than \$6k. bon budget from 1990 for 33% risk of exceeding 1.5C: 1,205Gt.

[Confronting Carbon Inequality: Putting climate justice at the heart of the COVID-19 recovery](https://www.oxfam.org/en/policy-brief/confronting-carbon-inequality-putting-climate-justice-at-the-heart-of-the-covid-19-recovery)

<https://earth.stanford.edu/news/climate-change-has-worsened-global-economic-inequality/#s.66a51w>

国家間・貧富の差における環境被害・責任の不平等性。
「気候変動問題の解決」とは、何を意味するのか？



気候危機の交差性 (Intersectionality)

気候変動の根本的な問題は「社会構造」ではないのか

昨年の世界気候アクションの世界共通ハッシュタグは、[#UprootTheSystem](#)「根本的なシステム転換を」だった。

科学のイノベーションと正常性バイアス

正常性バイアス→多少の異常事態が起こっても、それを正常の範囲内としてとらえ、心を平静に保とうとする働き。「たいしたことにはならないはずだ」と過小評価してしまう。

気候変動だったら...

日本人の気候変動に対する危機感のなさは、「いつか科学にビックイノベーションが起こってこの気候変動も一気になんとかなる」または「周りも環境に対してとくに何もしてないから、たぶんそこまでひどくはない」と問題を軽視してしまっている点があるのではないだろうか。科学技術によってこの危機が解決されるのであればとても良いのだが、過度な期待によって気候変動問題が楽観視されているような印象がある。

そうはいつでも、
いつかすごい技術が
発明されて
地球温暖化もなんとかな
るんじゃない？



参照

Heatwave: Ferocious European heat heads north <https://www.bbc.com/news/world-europe-62216159>

*1 Carbon budget の根拠

https://www.globalcarbonproject.org/global/pdf/carbonbudget/1.5C_Animation_Jackson_GCP_Stanford_2019.pdf

*1 Carbon Budgetの動画 <https://www.youtube.com/watch?v=R071WPD5MCc>

*2 ティッピング・ポイント論文(ヨハン・ロックストロームさん共著)

<https://media.nature.com/original/magazine-assets/d41586-019-03595-0/d41586-019-03595-0.pdf>

*2 ティッピングポイント(Guardian) <https://www.theguardian.com/environment/2021/jun/23/climate-change-dangerous-thresholds-un-report>

*3 Climate Clock <https://climateclock.world/>

Fridays For Future関連写真

<https://fridaysforfuture.org/>

P300 Redefining Environmentalism: The struggle for "green" justice

<https://www.gemenskapspraktik.se/projects/afarmonthecountrysideinthecity/Nature%20as%20Community%2C%20Giovanna%20Di%20Chi%20ro.pdf>

Oxfam(世界で最も裕福な10%が、世界の二酸化炭素排出量の半分を排出している)

<https://oxfamlibrary.openrepository.com/bitstream/handle/10546/621052/mb-confronting-carbon-inequality-210920-en.pdf>

Stanfordnews (地球温暖化による国家間の経済的被害の不平

等)<https://earth.stanford.edu/news/climate-change-has-worsened-global-economic-inequality#gs.66a51w>

正常性バイアス

<https://www.research.kobe-u.ac.jp/gsics-publication/gwps/2021-39.pdf>

<https://www.minamitohoku.or.jp/up/news/newword/normalcybias.htm>